

令和2年度

三島中学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①基礎学力の定着を図り、個に応じた指導の推進
- ②主体的に学習に取り組む習慣をつけるための家庭学習の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
原田尚子	校長・総務 竹内寛泰 教頭・総括補佐 松谷薫 教務 畠中剛喜 1学年主任 原田尚子 2学年主任・国語主任 大野俊介 3学年主任 増田春香 数学主任 岩山敦志

校長

竹内 寛泰



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ①落ち着いた態度で話を聞いたり、与えられた課題に一生懸命取り組んだりすることができる。 ②漢字の読み・書きや簡単な文章の読解、四則計算や基本的な法則の理解等について定着が見られる。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができる。 ②授業中、わからないことをそのままにせず、自分から進んで質問することができる。	①朝学習の確認テストで、正答率が80%以上となることを目指す。 ②「授業でわからないとき質問する」生徒が80%以上となることを目指す。(生徒アンケート)	・これまでの取組を継続しながら、授業中、質問の時間や振り返りの時間をもつ。	・学習の目標と流れを明示し、見直しをもって学習に取り組ませることができた。 ・朝学習の確認テストで70%以上正答できなかった生徒には再テストをするなど個別指導を実施した。	・学習の目標と流れを明示し、見直しをもって学習に取り組ませることができたが、振り返りの時間を十分設けられないことがあった。 ・朝学習の確認テストで、正答率が80%以上となった。 ・「分からないことを授業以外で質問する」生徒は98%であった。
課題 わからないことをそのままにせず自分から進んで質問するなど、主体的に学習に取り組むことのできない生徒が見られる。	①授業の目標と流れをはじめに示し、見直しをもって学習に取り組ませる。振り返りの時間を設ける。 ②朝学習は、1日の学習のうち、2~3問はその日のうちに確実に覚えさせ、帰りの学活で担任がテストをする。ノー部活デーを利用して、質問学習の時間を新たに設定する。	①学習の目標・内容を明示し、振り返り学習を行う。 ②朝学習の確認テストで70%以上、正答できなかった生徒には再テストをするなど個別指導を実施する。	・これまでの取組を継続しながら、意見交換や話し合いの場面を増やし、考えを深める活動を充実させる。	・振り返りの時間を設けた「授業プラン」を設定する。 ・知識の習得を図る授業内容を再考する。 ・獲得させたい知識を明確にした課題を与え、家庭学習を充実させる。 ・朝学習の確認を放課後に行い、定着が十分でない生徒を担当が個別指導する。 ・授業中、生徒間でお互いに質問できる時間をとり、わからないことをそのままにせず、自分から進んで質問できるようにする。	・継続した思考活動を実施する。(例:「書く」場面を増やす、交流活動で「出し合う」「比べ合う」) ・教師からの問いの意味を考えさせる場面を設定する。 ・タブレットを継続的に活用し、生徒が興味をもって活動に取り組み、考えを深める場面をつくる。 ・研究授業の実施を継続し、教員全体の授業力の向上を図る。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 方法や手順が示されている学習に、集中して取り組み、課題解決のためのグループ活動に意欲的に取り組む。	なぜそう考えたのか根拠や理由を明らかにして、自分の考えをわかりやすく表現することができる。	「自分の考えをわかりやすく相手に話したり書いたりできる」生徒を70%以上にする。(生徒アンケート)	・これまでの取組を継続しながら、意見交換や話し合いの場面を増やし、考えを深める活動を充実させる。	・タブレットを活用し、生徒自身の考えを表現できる機会を増やした。 ・定期テストに思考力や表現力を問う問題を出題した。 ・授業力向上のための研修や授業研究会を実施した。	・生徒同士で説明し合うことで、考えを深めることができた。
課題 自分の考えを相手にわかりやすく伝えることが十分でない。	①タブレット等を活用し、生徒自身の考えを表現できる機会を増やす。 ②定期テストに思考力や表現力を問う問題を出す。 ③授業力向上のための研修や授業研究会を実施する。	①ホワイトボードを積極的に活用する。 ②定期テスト時、思考力や表現力を問う問題を1問以上出題する。 ③研究授業を実施する。	・これまでの取組を継続しながら、「ふりかえり手帳」や「家庭学習の友」を活用し、短期目標と長期目標をもたせる。	・継続した思考活動を実施する。(例:「書く」場面を増やす、交流活動で「出し合う」「比べ合う」) ・教師からの問いの意味を考えさせる場面を設定する。 ・タブレットを継続的に活用し、生徒が興味をもって活動に取り組み、考えを深める場面をつくる。 ・研究授業の実施を継続し、教員全体の授業力の向上を図る。	

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学習の準備や板書をノートに写すなど基本的な学習態度がほぼ定着しており、与えられた課題にまじめに取り組むことができる。	①計画的に課題解決に向けて自ら取り組むことができる。 ②テスト前には「ふりかえり手帳」で学習計画表を作成し、「学習の友」も活用しながら計画的に勉強することができる。	「普段から計画を立てて勉強に取りかかっている」「テスト前には、計画を立てて勉強している」生徒を70%以上にする。(生徒アンケート)	・これまでの取組を継続しながら、「ふりかえり手帳」や「家庭学習の友」を活用し、短期目標と長期目標をもたせる。	・毎日「ふりかえり手帳」を点検し、主体的に学習するように個別の指導をきめ細かく行った。 ・話をしっかり聞かせ、励ましや褒める言葉を常に投げかけることを大切に、発表へつなげることに努めた。	・生徒が意欲的に発表する場面が見られた。 ・保護者に「ふりかえり手帳」を点検してもらうことができなかったが、面談等を利用し一緒に確認することができた。
課題 ①家庭学習の時間が十分でない生徒が見られる。 ②自ら課題を見つけ解決する力が十分育っていない。 ③自ら発表できる生徒が少ない。	①「ふりかえり手帳」を毎日記入させることで、自分がすべきことを把握させ、主体的に学習する力を養う。 ②話をしっかり聞かせ、励ましや褒める言葉を大切に、意欲的な発表につなげる。	①毎日、「ふりかえり手帳」を点検し、個々の指導をきめ細かく行う。 ②家庭とも連携し、週1回は手帳を確認してもらうようにする。	・これまでの取組を継続しながら、「ふりかえり手帳」や「家庭学習の友」を活用し、短期目標と長期目標をもたせる。	・教師が個々の学習計画を点検する体制をつくる(例:学習計画立案と実践、振り返りと新たな取組の検討など) ・教師が励ましや褒める言葉を常に投げかけ、サポートする体制を維持する。 ・「ふりかえり手帳」と「家庭学習の友」を活用することの重要性を理解させ、計画的に学習する習慣を身につけさせる。	

令和2年度 学力向上ロードマップ

